日本のこころのうたミュージアム
船村徹記念館
だより
2021
Vol. 1

Music&Songs（みゅーじっく そんぐす）

発行／日本のこころのうたミュージアム・船村徹記念館　創刊／令和３(2021)年９月
〒321-1261 栃木県日光市今市719-1　電話／0288-25-7771（道の駅日光 代表）毎週火曜日・年末年始休

TOPICS　【特集】作曲家　船村徹と作詞家たち
～高野公男・星野哲郎・木下龍太郎～

【再延期】『演歌巡礼＃４ in 日光』

12月６日(月)第一部13時～、第二部16時～ ニコニコホールで開催の運び

日本のこころのうたミュージアム・船村徹記念館では、船村徹内弟子五人の会との共催にて「演歌巡礼 in 日光＃４」を、日光街道ニコニコ本陣ニコニコホールで10月に延期し開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大、及び東京都の緊急事態宣言期間延長に鑑み、12月６日(月)に再延期して開催する運びとなりました。このコンサートは〝船村徹を歌い継ぐ〟として船村徹氏の逝去後から始まり、今回で４回目を迎えます。出演の鳥羽一郎(69)をはじめ内弟子五人は、一年余り「歌いたいのに歌えない辛さ」を味わっており、「皆さんも長い間の自粛生活に疲れている筈、だからこそ、俺達が歌う船村メロディーを聴いて元気になって貰いたい」と、恩師ゆかりの地・日光でファンの皆さんと会えるのを、楽しみにしています。コンサートチケットは第二部が僅かに残席があり、10月１日から再販売します。開催当日は、会場でお客様に安全に楽しんで頂ける様、感染防止対策を万全にして行いますので、ご来場の皆様には全員、検温・手指消毒などのご協力をお願いしております。コンサート事務局は、船村徹内弟子五人の会　電話０５０-７１０９-１７２０。チケットの販売については、道の駅日光内事務局　電話０２８８-２５-７７７１まで。

※感染拡大の影響により、急遽中止となる場合がありますので、予めご了承くださいますようお願い致します。

船村徹 最後の内弟子を委ねた男
『舟木一夫』企画展 終了
のべ3700人が来館

この度、船村徹記念館開館５周年の節目に、最後の内弟子村木弾のデビューのプロデュースを引き受けてくださった舟木一夫さんについて紹介する企画展を、船村徹記念館３階　光と風のギャラリーにて、令和３年２月22日(月)から７月12日(月)まで約５か月間にわたり開催しました。期間中の来館者数は、のべ約３７００人。記念館入り口には舟木さんの等身大パネル写真を制作し、自由に記念撮影が楽しめるように設置。企画展会場では、「舟木一夫」の波乱万丈な人生と、船村徹との出会い、労苦を共にした作品作りのエピソード、その後の活動・船村徹から最後の内弟子「村木弾」のデビューについて協力を依頼されたことと、その作品作りやデビューまでのプロデュースまで自ら行った舟木さんの思いも紹介しました。今回は舟木さんのご厚意により、還暦を記念した全国ツアーコンサートで着用した「赤い詰襟」を特別に展示。ステージやＤＶＤでしかご覧いただけなかった衣裳を近くでご覧いただける機会となりました。会場内は舟木さんのデビュー後リリースされた数々の作品のディスコグラフィーを紹介、全２８０枚のジャケットを一堂に展示しました。さらに約40枚のステージ写真・スナップ写真などを展示した会場では、コンサートの模様を収めたＤＶＤをご覧になるなど、ご来場の皆様にはゆっくりご堪能いただいている様子がうかがえました。期間中には、来場者のみが参加できる「あなたの好きな舟木一夫ヒットソング」人気投票を実施。投票曲数は全部で１１８曲が挙がり、トップ10は、①高校三年生　②夕笛　③学園広場　④絶唱　⑤哀愁の夜　⑥修学旅行　⑦高原のお嬢さん　⑧その人は昔　⑨仲間たち　⑩銭形平次　となりました。

▲企画展会場の様子

船村徹記念館入口の▶
舟木一夫等身大パネル

７月２日には、舟木一夫さん本人が展示会場を訪れ、船村徹記念館常設展をはじめ舟木一夫企画展の様子もゆっくりご覧になり、記念に写真撮影にも応じて頂きました。展示終了後は、ファンの皆様の声を反映し、等身大写真とともに企画展パネルの一部を、２階常設展示コーナーへ移設し、同じ世代を生きる舟木ファンへのメッセージとして展示しました。

最後に、多大なるご協力をいただいた舟木一夫友音事務所様、舟木一夫後援会の皆様、アイエス様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

（加藤加）

【特集】

作曲家　船村徹と作詞家たち

～高野公男・星野哲郎・木下龍太郎～

船村徹 生涯の心友 作詞家　高野 公男

初めに船村の作曲家人生を決定づけた茨城県笠間市出身の「高野公男」です。二人は東洋音楽学校（現在の東京音楽大学）で出会い、「東京に出た人間はいつか故郷を思い出すようになるんだ。俺が茨城弁で作詞するから、お前は栃木弁で作曲してくれないか」と言い、船村は生涯をかけて「働く者のための歌」を作り続けました。高野は結核を患い、昭和31年9月8日に天国へ旅立ちました。高野26歳・船村24歳の時で出会いから別れまでたった7年。しかし、その7年が船村の原点であり全てだと言います。「高野はいつまでも私の中に生きている」と。平成28年、高野の没後60年に茨城で開催したコンサート『友情無限』では、高野の絶筆「男の友情」を、涙をこらえて歌いギター演奏しました。船村は、5月に行った8時間に及ぶ大手術で心臓の人工弁置換手術を乗り越えた後で、7月に退院してからは自宅で療養し、コンサートの日は約5カ月ぶりの公の場での出演を果たしました。船村の「心友」高野への思いの情念は、何物にも代えがたい弔いのコンサートで想いを果たされのだと思います。

作詞家　高野公男
昭和5年2月6日生まれ
昭和31年9月8日没
（享年26歳）

＊船村徹記念館2階「人生と仕事」に展示

天国の高野がさしむけてくれた 作詞家　星野 哲郎

船村と星野が出会ったのは昭和32年。横浜開港100周年を記念して「横浜の歌」を公募。船村はその選者の一人で、星野が作詞した「浜っ子マドロス」と「みなと踊り」が1位と2位を独占し、船村はその2編に曲をつけ、美空ひばりが歌いました。船村はその才能も高く評価し上京して作詞家として活動することを勧めました。平成5年9月に発売された星野哲郎作詞生活40周年記念アルバムに船村は寄稿し、綴られた言葉は、高野公男を失った辛さと、その大きな穴を埋めるのに、星野へ求めた思いが詰まった内容でした。（以下　寄稿文）

「私は、心の髄をえぐり取られた。それはきっと、高野が掴み取って逝ったのだと今でも思っている。ぽっくりと歪にあいた空洞から覗く世間は、無名の詩人が一人死んだところで変わるはずもなかった。（途中略）

・・・・1年が過ぎた。

「星野哲郎」という男の作った詞を目にした。それはあたかも乾いた土に染み込む水のように、私の心を満たしていった。私は、むさぼるように「星野哲郎」を求めた。詩人がえぐり取っていったものは、詩人によってしか埋めることはできなかったのだ。あれから40年。まだ足りない。私はこれからも「星野哲郎」を求め続ける。」

作詞家　星野 哲郎
大正14年9月30日生まれ
平成22年11月15日没
（享年85歳）

同郷が生んだ偉大なコンビ 作詞家　木下龍太郎

栃木県塩谷郡船生村、今は町村合併して塩谷町。ここが作曲家　船村徹の故郷で作詞家　木下龍太郎のふるさとでもあります。木下は、船村の5つ年下で化粧品会社に勤める傍ら、船村に憧れて作詞家になろうと志しました。木下は仕事で全国を回っており、運転免許証が無いため、汽車や電車での旅をし「その土地の居酒屋入って酒を飲み、土地の人々と話をするうちに、詩が固まったりします」と話していました。

船村は数々のヒット曲を世に送り出し、化粧品会社の部長になっても「二足のわらじ」をはいていた木下に、作詞家として一本立ちするよう勧めました。そして作詞に専念し始めたのは木下が50歳を過ぎてからでした。船村の「演歌巡礼」ときっかけは違うが、全国を巡る活動はともに通じるものがあり、大衆の声に耳を傾け、その地の人々との「一期一会」を歌にして世に送り出し、ヒット曲を生んでいったのは二人に共通するものだったのでしょう。船村・木下はまさに、同郷・船生村が生んだ演歌界の偉大なコンビだといえます。木下は船村を「導いてくれた兄」と慕い、面倒見が良い船村は数々の作詞を手がけた木下を「弟」のように思いやり、地域への貢献として平成17年に開校した地元の中学校の校歌も一緒に作りました。町が用意した謝礼は二人とも辞退し、学校施設の充実に使われました。平成20年9月、肺がんのためこの世を去った後には、船村がふるさと塩谷町や同郷の仲間に「木下の生誕の地」を示す石碑を建立することを呼びかけました。石碑は開業予定の道の駅事業の一環で町が整備し「道の駅湧水の里しおや」の日光連山・高原山が望める場所に、「船村徹・木下龍太郎 生誕の地碑」として二人、仲良く並んで鎮座することになりました。

作詞家　木下 龍太郎
昭和13年1月7日生まれ
平成20年9月22日没
（享年70歳）

文責／船村徹記念館
館長　加藤加代子

船村徹と阿久悠の未発表曲 9/29『新宿満月』発売

この度、歌手五木ひろしさん（73）は、故・船村徹、故・阿久悠の二人の遺作「新宿満月」を9月29日にCD化して発売することを発表しました。船村の逝去から2年後、船村徹音楽事務所社長で奥様の福田佳子さんが遺品を整理されていた際、資料を収めた引き出しから「新宿満月」と題された楽譜と作詞家　阿久悠さんの署名の入った歌詞の原稿が見つかり、阿久さんのご遺族に了解をとり、五木ひろしさんの事務所に原稿を持ち込まれたとのことです。福田社長は、新聞社の取材に「ピアノに合わせて口ずさんでみたら、船村らしい日本情緒にじむ曲でした。音域が広い難曲で、これを歌いこなせるのは、五木さんしかいないと直感しました」とコメントしました。

＊CDは船村徹記念館1階ミュージアムショップで購入できます。